



子ども樹木博士 ニュース

2014 - 9

No. 56

子ども樹木博士認定活動推進協議会

巻頭言



グリーンカーテン



子ども樹木博士認定活動推進協議会 会長 井上 公基(日本大学 教授)

グリーンカーテンとは、ゴーヤやアサガオ、フウセンカズラなどのつる性植物などを建築物の外側に生育させることで、省エネルギーに貢献しようとするものです。植物で窓を覆うことにより夏の直射日光を遮り、部屋の気温を下げる効果があり、日射の熱エネルギーを80%程度カットしてくれます。室温の上昇を抑え、エアコン等による電気等のエネルギー消費を減らし、節電等にも役立つ取り組みです。

全国各地でグリーンカーテンの取り組みが行われはじめてかなりの年数が経ちますが、環境省のアンケート調査の結果(2014年3月)によると、グリーンカーテンの認知度は約8割だそうです。特に60歳以上で認知度が高く、グリーンカーテンを昨夏(2013年)に育てた人の割合は約1割に過ぎず、過去に育てたことがある人と合わせても、育てた経験のある人は約2割程度だそうです。また、年代が高くなるにつれて育てた経験のある人も少なくなっています。グリーンカーテンに少しでも関心がある回答者は5割程度であり、特に60歳以上で関心は高くなっています。グリーンカーテンで多く育てられている植物はゴーヤとアサガオです。

グリーンカーテンを育てて良かった点としては、「植物の栽培を楽しめた」、「植物により癒やされた」、「直射日光を遮ることができた」など、節電の効果より精神的な満足感や生活面での効果が多く挙げられています。昨夏の実施者では、50歳代、60歳以上でこれらを挙げる回答

者が30歳未満、30歳代と比べ多かったとのこと、30歳未満では「電力消費量・電気代が減った」という回答が他の年代に比べ多くあったようです。

我が家の小さな庭でも毎年グリーンカーテンを作っています。初夏のホームセンターなどの店先では、いろいろなつる性植物の苗が並びます。今年は何を育ててみようかと、苗を選ぶのもグリーンカーテン作りの楽しみの一つです。昨年は、キュウリと瓢箪を、今年はキュウリと干瓢を育てました。猛暑の続いた今年の夏でしたが、植物は2階のベランダまで登りました。大きな葉っぱは、夏の強い日差しを和らげてくれます。朝晩の水やりは大変ですが、夕方に白い花を咲かせ、こころを和ませてくれます。葉陰にぶら下がった干瓢やキュウリは、時々食卓を賑やかにしてくれました。



キュウリと干瓢のグリーンカーテン

まだまだ暑い日差しを木々の葉っぱが和らげてくれますが、もうすぐ秋の便りが届き始めます。紅葉にはまだ少し早い時季ですが、小鳥の鳴き声を聞きながら、木々を眺めながら公園や森林を散策するとき、植物の葉を通した光の柔らかさを感じるのも楽しみの一つです。

目次

巻頭言	グリーンカーテン	子ども樹木博士認定活動推進協議会 会長	井上 公基 … 1
特集 I	我が国の原始・古代における木の利用(1)―建物―	子ども樹木博士認定活動推進協議会 会員	宮田 増男 … 2
特集 II	森を楽しく―名誉森林インストラクター 故山中寅文先生の思い出―(連載2)	一般社団法人日本森林インストラクター協会 常務理事・事務局長	寺嶋 嘉春 … 3
事例報告 I	(独)森林総合研究所の夏休みイベント	(独)森林総合研究所企画部研究情報課 研究専門員	秦野 恭典 … 4
事例報告 II	“子ども樹木博士”にチャレンジしませんか? 目で見て、手で触れて、何の木かを当ててみよう!	野田の樹木を見て歩こう会 副会長	長澤 良一 … 5
シリーズ	東南アジアの木々たち(25)―祝いのお花は、お墓の木?―	自然と植物の観察会 TREECIRCLE	梅本 浩史 … 6
子ども樹木博士質問コーナー	茨城県植物園緑のインタープリター・森林インストラクター		堀内 孝雄 … 7
事務局だより	第14回通常総会の開催について(報告)など		…………… 8



我が国の原始・古代における 木の利用 (1) —建物—



子ども樹木博士認定活動推進協議会 会員 宮田 増男

我が国の原始・古代の昔には、どのような樹種の材が利用されていたのでしょうか。今回は建物についてその一端をみてみましょう。

縄文時代～古墳時代

縄文時代の巨大な建物の柱材にはクリが用いられており、当時はクリの大木がたくさんあったと考えられます。

縄文時代中期を代表する遺跡として有名な三内丸山遺跡（青森市）からは、巨大な建造物の直径1mもの柱根が六本出土していますが、すべてクリです。

富山県小矢部市の桜町遺跡や石川県能登町の真脇遺跡、金沢市のチカモリ遺跡などでも巨大なクリの柱がありました。

クリは、実を食料にすることができたことから、当時すでに栽培されていたと考えられています。また、クリの巨樹を一種の信仰対象とする文化があったとも考えられています。

弥生時代から古墳時代には、特に西日本ではヒノキが多く使われましたが、ヒノキがあまり分布していない地域では、スギが比較的多く使われました。

静岡市の登呂遺跡（弥生時代後期）の堅穴住居や高床式建物には、多くのスギが使われています。

飛鳥時代以降

大阪府八尾市の我が家から15kmほどのところに



世界最古の木造建築物、法隆寺の金堂・五重塔(著者撮影)

法隆寺（奈良県斑鳩町）があります。この法隆寺は飛鳥時代の607年に創建されましたが、焼失し、金堂、五重塔を中心とする西院伽藍は7世紀後半に再建され、現存する世界最古の木造建築物です。これらの建物には、主としてヒノキが使われています。なお、独立行政法人の研究所によって、法隆寺金堂の屋根裏の木材の年輪年代測定によりその材は、7世紀後半に伐採されたものであるということが明らかにされています。

また、平安時代の1053年に建立された平等院鳳凰堂もヒノキでつくられています。

福岡県の大宰府（7世紀後半に設置された地方行政機関）史跡の建物の柱材にはコウヤマキが使われ、奈良市の平城宮（710～784年）跡ではヒノキとコウヤマキが主体で、また、静岡県藤枝市の御子ヶ谷遺跡官衙（奈良、平安時代の郡役所）跡ではヒノキが多く使われています。

古代における建物の柱材に用いられた樹種の調査事例

調査対象と調査点数	用いられていた樹種内訳
大宰府史跡の建物柱根 (6点)	コウヤマキ 6点
藤原宮及び周辺の遺跡の建物柱根 (7点)	コウヤマキ 4点、ヒノキ 2点、カシ 1点
平城宮跡の建物柱根 (114点)	ヒノキ 64点、コウヤマキ 45点、モミ 2点、ツガ 2点、マツ 1点
御子ヶ谷遺跡官衙跡の建物柱根 (70点)	ヒノキ 52点、イヌマキ 12点、シイノキ 1点、イチイ 1点

(参考文献 (1) から作成)

このように、古代においては、建物の柱材としてはヒノキが多用され、また、コウヤマキもかなり重要視されていました。

〈参考文献〉

- (1) 伊東隆夫編：木の文化と科学、海青社、2008
- (2) 鈴木三男著：日本人と木の文化、八坂書房、2002
- (3) 佐藤洋一郎著：クスノキと日本人—しられざる古代巨樹信仰—、八坂書房、2004

特集Ⅱ

森を楽しく

— 名誉森林インストラクター 故山中寅文先生の思い出—
(連載 2)

一般社団法人日本森林インストラクター協会 常務理事・事務局長 寺嶋 嘉春

山中寅文氏

平成 3 年に森林インストラクターの資格制度が創設された際、多くの実績のある山中寅文氏は、名誉森林インストラクターの称号を付与されました。その 7 年ほど前に筆者は山中寅文氏に出会い、多くの楽しい思い出があり、今もそれは「森を楽しく」感じる源となっています。

右の写真は、群馬県沼田市の玉原高原で、雪で屈曲したブナの幹に跨り、「こうやって遊べる」とポーズをとる山中寅文氏。



連載 2 回目です。本書のバックナンバーは、HP (<http://www.shinrinreku.jp/kyokai/kodomokyou.html>) に掲載されています。

連載 2 回目です。本書のバックナンバーは、HP (<http://www.shinrinreku.jp/kyokai/kodomokyou.html>) に掲載されています。

山中寅文流の「子どもに伝える森の話」

高尾山の登山口で。ここは昔から信仰の山とされていただけに、寄進されたスギがよく管理され、樹高 40 m、直径 130 cm のものが 40 数本数えられます。この素性の良いスギの木数本には、キツツキが巣穴を空けています。一本の木に幾つも巣穴が見られるのは、親鳥に続いて小鳥と孫鳥がまねして穴をあけたものです。鳥の仲間は、卵の殻を破って初めて見た動くものを親と見立てて、それと同じ行動をとるのです。

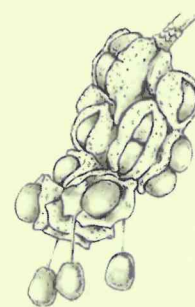
漢字の「習」という字は、そのような習性を持つ鳥の象徴といえます。なぜなら、「羽」と「白」という字を重ねた漢字だからです。ドングリを縦に切った切り口は真っ白で、「白」という字の象形文字といえます。



中が白いドングリの形を「白」と見立てた

山中先生は、ドングリを拾い、ふたつに切って見せ、つまり、私の心は椎の実のように真っ白です。お父さんお母さん、あなたの真似をしますからどうか教えてくださいというのが「習」の意味するところだと思います。と、ニコニコしながら話し、鳥の習性やドングリを印象深く説明されていました。

また、命のつながりについての話。コブシの袋果は、でこぼこしていて軽く握ったこぶしに似ています。秋に熟したコブシの袋果の赤い実を手でそっと離そうとすると、白い糸状の「へその緒」でつながっていて、赤子を取りだす思いがします。こういう樹木はコブシなどモクレンの仲間とオガタマノキの仲間があります。オガタマノキは香気を放ち、昔、神前に供えた「榊」であったが、近年はサカキを供えている。昔、「へその緒」を持つオガタマノキを神前に供えたのはそれなりの意味があったはずで、ちょっと気になることです。と、山中先生は話します。



糸を引くコブシの袋果 (注)

オガタマノキは香気を放ち、昔、神前に供えた「榊」であったが、近年はサカキを供えている。昔、「へその緒」を持つオガタマノキを神前に供えたのはそれなりの意味があったはずで、ちょっと気になることです。と、山中先生は話します。

遊びの中で自然への接し方を教える

小石川植物園に子供たちが来た時のこと。植物園に着くと子供たちは、てんでばらばらにバッタを追いかけていました。けれども、一匹も捕まえない。「さあ、みんな 30 人のグループに分かれて」山中先生が虫取りのコーチをしました。グループは丸い輪になり、子供たちはしゃがんで息を殺して見守りました。校長先生も一緒にしゃがみました。3分、5分が経過。セミの穴や草陰からと虫がびよこんと顔を出しました。近くの子供が飛びつくと反対側に逃げる。そこに待っていた子供が難なく虫を捕まえました。虫は日陰と日向の境目に多いよと山中先生はコツを伝授。

(次回に続く)

(注) 山中寅文著「グリーンセミナー」誠文堂新光社より転載

事例 報告 I

(独)森林総合研究所の夏休み イベント (子ども樹木博士)

(独)森林総合研究所企画部研究情報課 研究専門員 秦野 恭典

茨城県つくば市にある(独)森林総合研究所では、毎年夏休みイベントとして、子ども樹木博士と夏休み昆虫教室を開催しています。また、夏休みの期間中、もりの展示ルーム(森林、樹木、木材、土壌、鳥獣関係の展示、昆虫標本、生きているカブトムシなどの展示)も開設しております。

子ども樹木博士は、平成12年に開始し、今年で15回目を迎えます。研究所内に2つの樹木園があり、子ども樹木博士は第1樹木園で実施しております。

第1樹木園の広さは3.28haで、樹木数は針葉樹が84種、広葉樹が481種の合計565種あります。園内はブロック分けして植樹されており、「暖温帯林樹木」、「冷温帯林樹木」、「亜寒帯林樹木」の各ブロックに加え、「水辺風致樹木」、「外国産針葉樹・広葉樹」および「タケ・ササ」のブロックがあります。また、サクラの見本園もあり、緑色の花が咲く「御衣黄：ぎょいこう」など、珍しいサクラの品種もあります。土日祝祭日、年末年始を除く毎日、9:00~17:00第1樹木園を開放しており、守衛室で受付を行えば、自由に見学することができます。

子ども樹木博士では、是非覚えて欲しい樹木を、広葉樹、針葉樹のバランスも考えて、園内の30種の樹木を選定しています。参加者を数人のグループに分け、植物関係の研究者とともに、約1時間30分かけて園内を周り、樹木の特徴を記したテキストを用いて、樹木の葉や実、樹皮などの特徴と、樹木の名前の由来などを学びます。



その後、テーブルに並べられた枝葉を見て、その特徴から樹木の名前を判別するテストを受けます。その成績によって、3



級から3段までの認定書を授与しています。今年は2段が13名、3段が8名で、合計21名の子ども樹木博士が誕生しました。付き添いの方を含めると、32名の参加者がありました。因みに、昨年の子どもの樹木博士は16名(付き添いを含めると、参加者35名)でした。

認定書をもらうと、「来年はもっと上になれるようにがんばる!」など、頼もしい言葉が聞かれます。

夏休みに実施していることから、小学生低学年から中学生まで参加されますが、車社会のつくばでは車で送ってこられる父兄の方も一緒に参加されます。大変熱心なお母さん方も多く見受けられます。

なお、2012年11月に岐阜県で起きた「落下枝が子どもの頭を直撃」事故以来、安全性確保の観点から園内ツアーではヘルメット着用を実施しています。



事例 報告Ⅱ

“子ども樹木博士” にチャレンジしませんか？ 目で見て、手で触れて、何の木かを当ててみよう！



野田の樹木を見て歩こう会 副会長 長澤 良一

表題は、千葉県野田市内の7団体から構成される野田自然保護連合会の行事の一つとして開催した時のものです。野田の樹木を見て歩こう会としては、市民対象の樹木観察会を毎年4月の旧「みどりの日」に開催していますが、どうしても大人主体となっています。そこで今回は子ども対象として企画したのですが、幸いなことに野田市市民会館庭園（大正時代に建てられた茂木佐平治邸と、庭園であり国登録有形文化財で現在、市に寄贈されている）を使用させていただくことになり、せっかくならこの環境で“子ども樹木博士”イベントをぜひ催そうということになりました。実施



写真1 市民会館入口前庭にて



写真2 庭園内の樹木観察



写真3 会館内の和室にて認定試験

日は子どもたちも動きやすく親子参加も楽に出来るだろうということで、夏休みに入った7月28日（日）とし、定員は30名。早速チラシ等で告知をしました。ところが、この判断が甘かったのです。我々が考える以上に子どもたちは部活動、音楽コンクール、習い事に忙しく、10日間でわずか5人の申込みしかないという状況でした。これは一大事ということで、当会事務局長を中心に勧誘作戦を執行しました。当会会員や知人に電話をしたり、過去に子ども樹木博士を実施した学校の先生方、公民館の主事さん等に直接事情説明をしました。その結果、当日の参加者は小1から中1までの子ども20名、保護者や学校関係者22名、当会のインストラクターを含めたスタッフ18名と総勢60名を数えました。（写真1）

当日は野田市市民会館に9時集合とし、9時半観察開始、12時終了の予定としました。観察会は会館に隣接する庭園内の10本の樹木で行いました。気温も高く蒸し暑い中でしたが、熱中症に気を付けて水分補給しつつ進めたこともあり、全員元気に試験会場へと移動することが出来ました。（写真2）

試験及び表彰式会場は、歴史を感じさせる由緒ある建物の和室二部屋を使用しました。移動の際、「和室ってなあに？」と聞く子どもがいたりして、彼らにとって貴重な体験になったことでしょうか。（写真3）

試験の結果、全員に樹木博士の初段及び一級の賞状を手渡すことが出来ました。最後に特別参加の箕輪光博先生より「子どもの頃自然に親しむことがとても大事であり、親子の触れ合いの時間が何より大切である。」との講評がありました。

数日後に参加保護者より子どもが帰宅後に絵日記に書いた話や、賞状を家族に自慢げに見せていた話、庭の木の名前を調べて夏休みの自由研究にしたい等の報告を受けました。このように保護者の方からの感謝の言葉はもちろんですが、何より子どもたちが樹木に興味を持ってくれたことが一番嬉しく思います。

シリーズ

東南アジアの木々たち (25) — 祝いのお花は、お墓の木? —



自然と植物の観察会 TREECIRCLE 梅本 浩史

今年の夏も、随分と早い時期から猛暑が続き、すっかり夏バテされた方も多いのではないのでしょうか。夏と聞くと、色んな言葉が思い浮かんできます。プールや海水浴、花火大会、夏休みと自由研究、旅行、キャンプ、お盆にお墓参りなど。

中でも、お盆と言う風習は、精霊や祖先の御霊を敬い、現世にお迎えして供養する、大切な信仰の一つ。その際、盆花・仏花・墓花と呼ばれるお供えも一緒に飾られます。この花は、お墓参りの時にも、お線香とともに欠かすことのできない物です。

さて、今回ご紹介する南国の木は「プルメリア」(インドソケイ)と言う花木のお話です。ハワイでは、綺麗な花輪の花飾り「レイ」Leiに、プルメリアの花をよく用います。女性たちは美しいレイを身に付け、頭にはプルメリアの花を数輪髪にさし、優雅なフラダンスとともに出迎えてくれます。南国ハワイを象徴する、香り豊かな花木なのです。(花を髪にさす場合、未婚

者は右側、既婚者は左側にさします。)

誰もが南国リゾート地をイメージする花。しかし、昔は少し違っていました。実は、お葬式で死者に手向けられる「墓花」なのでした。それゆえ、寺院や仏塔、墓地にも沢山植えられ、「Temple Tree」や「Pagoda Tree」などの異名を持ちました。日本で言う忌木の類です。



東南アジアのタイでは、プルメリアはラントムと呼ばれ、これはタイ語のラトム(悲しく辛い)やロムタン(貴方の屁)の発音に似ており、あまり縁起の良い木とはされませんでした……。そこで、タイ王室のプ

ラテープ王女様が、新しく「リーラ・ワディー」(優美に歩く女性)と改名され、広く庭木や祝い事などに用いられるようになった、との逸話があります。何事もイメージは大切ですね……。

子ども樹木博士質問コーナー

茨城県植物園緑のインタープリター・森林インストラクター 堀内 孝雄



Q 庭の垣根のカイツカイブキの葉っぱがこれまで見たことのないような、触ると痛いトゲトゲのスギの葉っぱのような針葉に変わって出てきました。これは一体どうしたことでしょうか。不思議です。

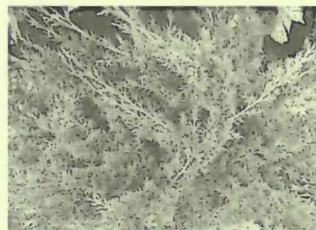
A カイツカイブキの葉は普通うろこ状の葉っぱですが、スギの葉のような針葉に変わったというのは俗に葉っぱが化けたといわれる現象です。そしてこれはカイツカイブキの葉の先祖帰りと言われる現象です。もともとカイツカイブキはイブキ（ジャクシン）の園芸品種です。イブキはヒノキの葉のような鱗片葉の葉とスギの葉のような針葉の2型があります。この葉っぱの変化は強い剪定によって原種のもっていた古い形質が現れたということで「先祖帰り」などと呼ばれるのです。

カイツカイブキの増殖は、挿し木や実生で苗木を作りますが、出来た苗木はいつまでもスギ葉の針葉型の葉がついています。カイツカイブキは枝が炎の燃え上がるような見事な樹姿で、剪定・整枝によく耐えいろいろな造形に仕立てられることは利点ですが、樹勢の弱ったカイツカイブキの強目の剪定や刈り込みは先祖帰りしやすいので、剪定・整枝には気をつける必要があります。

カイツカイブキは排気ガスなどによる大気汚染や乾燥、塩風などにも強いので、庭木や道路沿いの並木、公園樹木として重用される樹木ですが、欠点もあります。それは「ナシの赤星病の中間宿主」となることです。このためナシやリンゴなどの産地では、自治体の条例などによってカイツカイブキの仲間の植栽が制限されることもあります。このことは覚えておきましょう。



強く剪定したため多くのスギ葉状の萌芽枝を出したカイツカイブキ
(ひたちなか市 2014.8.5)



主軸（幹）を切り落としたため先祖帰りしたカイツカイブキの枝葉
(ひたちなか市 2014.8.3)

Q ザクロは実が熟して烈開すると赤い小さな実がびっしりと入っているのが見えたり、朱橙色の花の色やその形などエキゾチックな果実のように思います。一体どこから来た木でしょうか。果樹として導入されたものでしょうか。

A ザクロは最も古い果樹の一つといわれます。ザクロの原産地は西アジアで、地中海沿岸からヒマラヤ西部などに分布し、その中心が今のトルコ（イラン）といわれ、この地方では重要な果実とされているようです。西域からシルクロードを通り中国を経て多くの文物が日本に伝来したことはよく知られています。それらとともに西域からシルクロードを経てわが国にもたらされたものと思われます。

ザクロは1000万年前から分布していた植物で、古代アジア、シリア、エジプトを経てギリシア・ローマに伝わったということで紀元前2500年ごろのエジプトの墓でレリーフにザクロが描かれていたといわれ、ギリシア神話にも出てくるといわれます。日本には10世紀、平安朝のころに伝来したといわれます。果実は食用、薬用のほか、果汁は鏡磨きに用いられたようです。また、花木として愛され庭木に利用されてきました。なお、中国では、「博物誌」によると「漢の張騫、西域に出使した時、榴種を得て持ち帰り故に安石榴と名づける」とあるといわれます。榴は瘤のことで果実の形を表したものでちに石榴、柘榴などを用いるようになったといえます。西アジアからヨーロッパ、アメリカに導入され、それぞれの地域で果樹として品種改良され果物として利用されています。ザクロの実には生食のほかジュース・果実酒などとして利用され、一時ブームになったこともありました。



庭木のザクロの若い実
(ひたちなか市 2014.8.5)



花瓶に挿したザクロの花
(ひたちなか市 2014.6.22)

● ● ● ● 事務局だより ● ● ● ●

◆第14回通常総会の開催について（報告）

7月14日（月）、林友ビル（東京都文京区後楽）会議室において、当協議会の第14回通常総会が開催されました。なお、当日は、これに先だって第16回役員会が開催されました。

総会では、先ず井上公基会長（日本大学生物資源科学部教授）の開会の挨拶、続いて来賓としてご出席いただいた林野庁森林利用課の赤堀聡之課長から森林環境教育の重要性について、そして子ども樹木博士活動への期待を込めたご挨拶をいただき、その他のご出席いただいた林野庁の担当官の紹介がありました。

議事では、平成25年度の活動報告及び収支決算報告、平成26年度の活動計画及び収支予算について審議され、承認されました。

審議の中では、これまでの傾向として活動の実施結果の報告等が減ってきていることなどを踏まえて、活動の推進に向けた取組はもとより、実施団体からの報告にインセンティブを与えるような対応についても検討するなど、実施団体のネットワーク化の推進等に一層努めることとされました。続いて役員候補が行われ、3名の幹事の交代が承認されました。

また、当日は、総会に引き続いて、「子ども樹木博士活動の10年と課題」と題して、当協議会幹事（前会長）の木平勇吉先生（東京農工大学名誉教授）による特別講演が行われ、これまでの子ども樹木博士活動の推進状況や今後の課題についてお話いただき、出席会員との質疑応答等も行われるなど、大変有意義な時を過ごしました。

ご来賓としてご出席いただきました林野庁の皆様、役員・会員の皆様、そしてご講演をいただきました木平先生には、心より厚くお礼申し上げます。



特別講演会の開催状況

活動報告及び活動計画の概要は、次のとおりです。

◇平成25年度の活動報告の概要

- 1) 機関誌「子ども樹木博士ニュース」を6月、9月、12月及び3月の年4回発行・配布（発行部数：各回850～900部）
- 2) 認定活動の実施状況（実施団体から事務局に報告等されたもの）
 - ・実施回数で延べ72回、参加人数で延べ約20百人（前年度：69回・約22百人）
 - ・地域ごとには25都道府県で63団体による実施（前年度：25都道府県・60団体による実施）
- 3) 「認定証」、「認定活動の進め方」、その他の資料等の配布
- 4) 新しい「子ども樹木博士のための樹木ガイド」の普及
- 5) 実施団体等からの要請に応じた森林インストラクターの紹介
- 6) 「森林からはじまるエコライフ展2013」でのパンフレットの配布、ホームページの更新等

◇平成26年度の活動計画

平成25年度の活動とほぼ同様の内容（掲載略）

◆実施団体等の皆様へのお願いです。

認定活動を実施された場合は、その実施結果についてご報告をお願いします。報告用紙はホームページからもwordの用紙をダウンロードできます。用紙がないなどの場合は、実施団体名・実施年月日・募集対象と人員・参加者数・実施場所などをメモ書きしていただき、FAX又はメールなどでお送りください。よろしくお願いたします。（O）

子ども樹木博士ニュース

2014年9月1日 No.56

子ども樹木博士認定活動推進協議会

〒112-0004 東京都文京区後楽1-7-12 林友ビル6階
 一般社団法人全国森林レクリエーション協会内
 TEL：03-5840-7471 FAX：03-5840-7472
 E-mail：kodomohakase@shinrinreku.jp
 URL：http://www.shinrinreku.jp/kyokai/kodomokyou.html
 http://www.shinrinreku.jp/kodomo-n/main.html